

編集者の の 独り言

2025年7月号の特集記事は、シリーズ「化学遺産の認定」として2010年（平成22年）から始まり本号で第16回目を迎え、化学遺産委員と専門分野の先生方に取りまとめでいただきました。ご執筆いただきました皆様方には、この場を借りて感謝申し上げます。

本号掲載の『第16回化学遺産認定』は、5件の認定候補が当会にて認定承認されました。いずれも歴史的に興味深く、まさに「化学遺産」に値するものばかりです。読者の皆様は、どの「化学遺産」にご興味を持たれましたか？

さて、4月13日から10月13日までの6ヵ月間として「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに「大阪・関西万国博覧会」が開催されました。万国博覧会は、文字どおり世界各国が参加されそれぞれテーマが設定される国際的なイベントであり、歴史も古く5年ごとにいずれかの国で開催されています。本万博では、約150に及ぶ国々による参加で、55年前に日本で開催された大阪万博（EXPO'70）と比較して2倍以上の規模で、すべての展示を見学・体験するには、数日かかるといわれております。開催セレモニーに朝早く

から並ばれた方もいれば、複数回の見学を目的に近くに転居された方もいると報道されていましたが、計画当初は並ばない万博を目標とされていましたが、残念ながら各国の展示ブースには長蛇の行列も見受けられるようです。見どころはたくさんあり、個々の興味にもよりますが、私自身は25年後の自分の姿のアバターを作ることができる大阪ヘルスパビリオンでバーチャル空間を並んででも体験したいと思うところです。

コロナ禍後のインバウンド現象に本万博開催も重なり、大阪周辺地域では多くの観光客が見込まれ、宿泊施設も予約が取れない状況といわれています。日本で開催されるのは数少ない機会でもありますので、複数日にわたり休みの取れる夏休みなどを利用して、未来社会に期待される各国々のパビリオンを見学し、世界各国のプレゼンターともコミュニケーションを図り、ちょっとした海外旅行気分を味わいたいと思います。

本号が皆さんのお手元に届くころは、梅雨真っ只中で気分も晴れないことが多いかと思います。時間に追われることから離れ、この機会にゆっくり考える時間も作ってみてはいかがでしょうか。（菅 孝剛）

カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合せ先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当
FAX(03)3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



オニユリ 務台 潔